

COOP-JOSO News Letter

2019年10月5日号 発行/常総生協広報G

2019年度活動テーマ「JOSO食材でかんたん・うちごはん」

福島・相馬のさかな屋さん センシン食品 被災地のハンデを乗り越えて おいしい魚をとどけたい



センシン食品の高橋永真さん（左から2人目）と奥様の圭子さん（右から3人目）と増本理事長（右から4人目）、生協職員チーム。

この秋、職員みんなで「いちおしの商品」を組合員さんにお届けしよう！と「秋のおいしさ伝え隊」5チームが発足しました。まず第一弾として「ごはんに合う海の幸チーム」がセンシン食品（宮城県名取市）の手作りの加工品をご紹介します（本紙カタログ16ページ参照）。

センシン食品の高橋さんは、津波と放射能の二重苦の中でも希望を持って進んでいきたいと、被災者が被災者を支援する団体「NPOはらがま朝市クラブ（相馬）」を立ち上げ活動が続けてきました。常総生協とは支援物資の提供などを通じて、強いきずなで結ばれています。その中で生まれたのが、皆さんご存じの「ねばうま（松前漬け）」です（P.16 **446**掲載）。※本物の素材だけで作られたおいしい松前漬けです。一度ご賞味ください。

先日、10/12土に名取市の工場で高橋さん家族にお会いしてきました。（2頁へ続く）→

今回、秋のおいしさ伝え隊「海の幸チーム」が、宮城県名取市にあるセンシン食品さんの工場を訪問しました（2019/10/5）。ものづくりの考え方とおいしい魚のヒミツもお聞きしてきましたのでご紹介致します。

■センシン食品の高橋さんのこれまでの経緯

・高橋さんは、福島県の相馬生まれの相馬育ち、根っからの「相馬っ子」で、相馬の海と地域が大好きな人です。高校卒業後は、地元の水産会社に就職。その後独立し相馬の前浜・松川浦にセンシン食品の工場を立ち上げました。

・相馬は元々高級鮮魚の出荷港で有名でした。鮮度と魚種の豊富さはもとより、魚の扱いが丁寧なことが評判で、首都圏を中心に買い手が集まってきました。全国的に漁業は後継者不足が深刻な中、ちゃんと生活できる漁業を営む漁師が多いため、若い人が定着し活気あふれる港でした。鮮魚そのままでも高値で取引される中、高橋さんは自ら漁港で魚を目利きし（選び）、「さらにおいしく、もっと食べやすく」と他産地からの冷凍原料ではなく鮮魚を加工し消費者に届ける仕事をしていました。



■震災による津波と原発事故

・2011年3月。震災による津波と東電の原発事故で工場は流され、前浜の魚も失いました。当時、このまま相馬に残るべきか、移住して再起を賭けるか悩んだとのこと。しかし、生まれ育った相馬や仲間が苦難の中にいることを無視できず、相馬に残り、被災して仮設住宅に住む人々の生活支援をする「NPOはらがま朝市クラブ」を立ち上げました。地域での朝市リヤカーで一戸ずつまわり、声かけや支援物資の配布を行って来ました。



■相馬の水産加工の灯火を消したくない

・震災から1年後の春、支援を行いながら仮設の加工場を被災した仲間とともに再建。ただ、前浜の魚は使えないため、全国からの支援で集められた素材の加工からスタート。その第一号が松前漬け「ねばうま」です。青森県の雪下人参、北海道松前町からのするめいか、そして常総生協（沼屋さん）の醤油でつくりました。その後も、少しずつ種類を増やしていきました。

・震災後、常総生協などのつながりで生産者の支援もあり、その中には「うちの調味料を使ってみては」という提案もありました。その時「**本物の調味料を使うと、やはり今までのものと全く違う仕上がりだった。これは発見だったね**」と高橋さんは振り返ります。今でも、私市醸造の酢、藤井養蜂場のはちみつ、常総醤油（沼屋）は調味のベースです。



■あれから8年

・震災から8年。相馬はいまだ試験操業が続いています。夏場は概ね月に8日（週2日）の漁しかありません。これでは安定して魚を仕入れることは困難です。

・そこで、相馬からほど近い宮城県名取市閑上（ゆりあげ）への移転を決断。相馬の魚と宮城の浜の魚の両方を扱えることで生産の安定が目指せます。

■これから目指したいこと

・震災後、東京から長男の大善さんが戻ってきて、高橋さんの仕事を一緒に手伝うようになりました（先月ご結婚されました！）。「やっぱり旬の新鮮な魚をちゃんとした調味料で最高の状態で食べてほしいよね」と高橋さん。そのスピリッツは息子さんにも引き継がれています。「あと、何よりも、自分が食べたいものを作る。これが一番！」と言います。

・最高の鮮度、最善の加工技術でお届けする高橋さんの手作りのお魚総菜。ぜひお試しください。



442 アジフライ（2枚）



★試食した職員の感想

- ・「とにかく1枚が大きいです！夕食のメインになるアジフライです」
- ・「鮮魚から加工しますので、大きくてもやわらか！生臭みなし！」
- ・「生パン粉を使っていますので、サクサク！ちょっと感動します」

【原材料】アジ、生パン粉（小麦粉、ショートニング、砂糖、イースト、食塩）、藻塩

～揚げるならこの1本～

549 あげものの油（1380g）岡村製油（大阪府・柏原市）



★別冊「いつでも買える前日OK商品リスト」掲載品 （※別冊ご希望の方は供給担当までメモください！）

- ・素材の旨みを引き出す綿実油と甘みのある香りが特長の米油を使った風味良い油です。
- ・揚げ物はカラッと揚がり、炒め物はあっさりとし上がります。

【原材料】食用綿実油（トルコ、ギリシャ）、食用なたね油、食用こめ油

※油の原料は全て非遺伝子組み換え原料。こめ油の抽出時に加工助剤としてヘキサンを使用。

生産者と組合員と職員の声

○消費税増税に伴い

キャッシュレス決済の2%キャッシュバックされることを聞き、生協さんでのクレジットカード支払いの予定はありますか？

（つくば市 S.Mさん）

申し訳ございません。常総生協ではクレジットカードで供給代金の支払いをすることは出来ません。確かに便利で今回のキャッシュレスの消費者還元制度は魅力的だと思います。組合員の皆さんも利用しやすくなると考えます。そこで検討をしたのですが、100%の入金の保障はありますが、生協に入金されるタイミングが銀行引き落としより遅れて入金される事により、経営上資金繰りが厳しくなるリスクもあり、クレジットカードの導入は断念しました。また、paypayなどの電子決済に関しては色々情報を集めている状況です。常総生協には戸頭店というお店がありますので、まずはお店の導入から検討しています。

個人的には増税されて以降、「キャッシュレスはお得」という意識から、キャッシュレス比率が1日7%利用者が増えていて、この流れに乗りたくところではあります。しかし、よくよく考えると、キャッシュレス決済を進めるため、かなりの税金が使われていることがわかります。端末導入費用の3分の1を決済事業者が負担し、3分の2を国が補

助することになっているので、対象店舗の負担はゼロです。また、キャッシュレス決済の加盟店となり決済インフラを利用するにあたっての手数料は上限3.25%とされ、その3分の1を国が補助することとされています。こちらもほぼ税金で丸抱え状態です。これらの実施に係る費用は、本年度当初予算で総額2798億円です。

この消費税増税のポイント還元は、増税対策、増税後の消費減対策と認識されることが多いように感じますが、実は国民、生活者、消費者のために進められているものではないと受け取れるように感じます。

（専務理事 伊藤）

○真だらバジルオリーブ

さっぱりとしたタラに、バジルとオリーブオイルがうまくなじんでいて美味しい。たらがイタリアンのようにおしゃれな美味しさに大変身して、子供からの評判も◎

（つくばみらい市 Y.Oさん）

ご意見ありがとうございます。

次回の企画は11月2回注文番号124にて掲載しています。是非リピート利用してください。

（商品部 水産担当 柿崎）

第90回 脱原発と暮らし見直し委員会 報告

2019年10月2日(水) 常総生協本部組合員室 13時半～16時 組合員9人参加。

★チーム活動報告

○市町村のセシウム測定データ収集

近隣市町村のデータ収集を11月で終了することになりました。全国の調査状況の報告も今年いっぱいとしませんが、汚染地域の調査結果は今後もチェックしていきます。今後の活動を検討中です。

○DVD貸出

DVD「スーパーサイズミー」を購入しました。

★今月、東海第二原発の近隣6市村の首長に再稼働反対を求める署名を6市村の首長と県知事に提出に行く予定です。賛同される方どうぞ一緒に出掛けましょう。生協の車が出ます。

10/23(水) 13:30那珂市、10/30(水) 10:00東海村

★先月行われた、豊田直巳写真展(土浦市民ギャラリー)、大城弘明 与那覇大智 写真と絵画二人展(茨城県つくば美術館)とも多くの方にご来場いただきました。ありがとうございました。

★委員会では、新たな活動を検討中です。組合員の皆様もご提案やご意見をお寄せください。

★次回は、11/5(火)13時半～16時(生協本部)の予定です。

委員会はどこでも自由に参加できます。関心のある方はお気軽にお越しください。

2019.9.16さよなら原発全国集会報告②(常務理事 木内)

9/16(月)代々木公園で行われた「さよなら原発全国集会」に参加してきました。会場である代々木公園につくとケヤキ並木の大きなケヤキの枝が折れており、ここでも台風15号の猛威を感じ取れました。

今回も常総生協と東海第二原発運転差し止訴訟原告団と共同でブースを出店し、東海第二原発再稼働反対の訴えかけと、毎回おなじみになったおかべやさんのパン、ニンジンジュースなどの販売を行いました。集会に参加した多くの方が生協ブースに顔を出してくれて、楽しみにしていたおかべやさんのパンやジュースを買い求めに来られ、お昼には、パン・ジュースは完売。

午後の各団体からの呼びかけでは、福島原発事故から8年半が経ちますが、まだまだ多くの課題が残されており、「フクシマを忘れない」、「脱原発社会の実現」を掲げて、様々な課題が訴えかけられました。生協からは、職員でもあり、東海第二原発差し止訴訟原告団事務局の木本さんが放射能汚染重点地域に住むお母さんの目線からの想いをスピーチされました。

私は、過去の原発事故から、原発とは共存出来ないことを学びました。また、未来へ「核のゴミ」のツケをこれ以上残してはいけなとを考えます。

主催者から8000名の参加者と報告されました。2011年に行われた集会は4万人以上の参加者があり、事故の風化が危惧されます。あの事故を経験した私たちは、あの経験を次世代に共有し、伝えていかなければなりません。一人が誰かに伝え、誰かが別の誰かに伝えることにより大きな流れを作ることができるのではないのでしょうか？再び同じ過ちを起こさぬようにみんなで行動していきましょう。



2019年10月の予定

○生協基幹運営/地域活動・催し●	○提携・協同・連帯企画●
10月ゴンタの丘「常総っ子応援団」は毎週木曜日に活動しています。親子煮炊き会(試食会)は10/24(木)開催です。	10/19(土)コープ共済業務点検監査(2日目)
10/19(土)歴史を学ぼう～未来のために～ タネが危ない講演会(常総生協)	
10/20(日)我孫子産業祭出店	
10/30(水)生協まつり実行委員会 東海村村長へ署名提出	